議事概要

令和５年度　第１回　新潟市地域と学校パートナーシップ事業運営協議会

日　時：　令和５年９月６日（水）　午前１０時～１１時
場　所：　新潟市芸術創造村・国際青少年センター　４階　多目的スペース２
出席者：　新潟市地域と学校パートナーシップ事業運営協議会委員
　足立委員、稲垣委員、今井委員、小幡委員、栗田委員、塩田委員、清水委員、清野委員、髙橋委員、渡部委員
事務局
　地域教育推進課長ほか６名
傍聴者：　なし

１　開会

２　地域教育推進課長あいさつ

３　委員自己紹介

４　委員長及び副委員長の選定
委員長に足立委員、副委員長に渡部委員が選定されました。

５　議事
（１）令和５年度の事業実施概要について
（事務局）　案件概要説明

（髙橋委員）　コーディネーターの業務用パソコンが入ったことは、とてもありがたかった。コーディネーターから、仕事がしやすくなった、限られた時間の中で事務処理ができるようになりすごく良かったと伺った。

（２）今後の取組についての意見交換
（事務局）　案件概要説明

（足立委員長）限られた時間の中で複数配置のコーディネーターたちが効率よく仕事が進められるようにしていく、その具体的なアイデアや、市民への周知、広報活動について、より多くの方にこのパートナーシップ事業を知ってもらう、その方向性についてご意見をということだった。あと、市立高校への事業の拡大などについても、委員の皆様からご意見やご質問を承れればと思う。

（清水委員）　昨年度まで味方中学校にいたが、地域との連携にコーディネーターの力が本当に大事だと身に染みて感じていた。が、なかなか複数の方の配置ができなくて、一人のコーディネーターが頑張っていた。

現状として、複数配置のパーセンテージはどんな状況になっているのか。なかなか複数配置ができないところに関しては、どのような対策を取っていったらいいのか教えていただければと思う。

（事務局）　まだ複数配置が進んでいない学校が３０校ほどあるため、直接校長先生と連絡を取り合い、訪問し相談を受けている。学校からコーディネーターの募集に手を挙げてもらえるよう、案内を出している。手を挙げてもらった学校は、市のホームページに募集を掲載するという形を取っているが、募集をしてもなかなか応募がない学校がある。

一人体制については、なかなか次の二人目のことについてコーディネーターとうまく話し合いが進まず、一人でもうちの学校は十分できていると考えている学校もあって、一人体制でも募集に手を挙げていない学校があるのは否めない。

そのため当課としては、まずは複数配置のメリットについて学校に説明を行い、理解を得るということと、手を挙げてもらったところには、学校の方でも地域の方、それから保護者の方にコーディネーターの仕事について広く紹介していただいて、コーディネーター業務に関心をもっていただくように呼び掛けてもらうという体制を現在とっている。今年度も、新しくコーディネーターになってくれた方が少しずつ増えてきたので、まだの学校には校長先生や教頭先生とも連絡を取っていきたいと考えている。

（事務局）　直接の原因とは違うかもしれないが、学校で公募をかけるときに、公募を受けてくれないかとつなぐことはある。学校として承知している人とか、子どもたちや学校教育に理解のある方に公募を受けませんかとお声がけすることはある。そういった点でもボランティアの減少はなんとか歯止めをかけていかなければならない、５年先、１０年先を見ながら考えていかなければと思っている。

（足立委員長）地域コーディネーターの複数配置や、ボランティアの数のことなどに話題が及んでいるが、関連していかがか。

（塩田委員）　私のところも２・３年前に複数配置になり、もう一人増えた。そのコーディネーターや新しいボランティアも加わって、仕事を分担できて非常にスムーズにできるようになって、本当にありがたいと思っている。

ただ、私と同じ年なので、この先どうしようという不安がまたあり、

やっぱり新しいコーディネーターを探していかなければならないという共通の話題がある。ボランティアの中からというのも、なかなか厳しい。協力的だった方も、ある程度お子さんが大きくなると仕事に行ってしまうということがあり、なかなか新しい方が見つからないという現状がある。

（足立委員長）学校規模など実情も違うので一概に何がなんでも複数が、ということではないかもしれないが、やはりメリットが多い。複数配置に理解いただき、できればさまざまな年齢の方に関わっていただけるといいと思う。

（栗田委員）　ＣＳ（コミュニティ・スクール）とパートナーシップ事業との関わりについてお話させていただく。ＣＳでは年４回の運営協議会があり、岩室地区ではそのうちの１回が小中合同で３校、全教職員がＣＳにみんな集まる。昨年で言えば岩室地区で育てたい姿とか、例えば岩室では関わる力が弱いので力をつけて自己肯定感を高めていこうという話し合いがあり、それをまた学校にもち帰って今年度の教育目標を作ったりした。

それからパートナーシップ事業は、これまで行われてきた事業を見直して、ＣＳで話し合われることが生かされるような事業の内容に少し精査精選していきましょうと職員に働きかけている。そういう意味で、ＣＳ、熟議とこれまで行われてきたパートナーシップ事業というのは、本当に自転車の両輪ということで、今後一体化されていくような、新潟市らしいコミュニティ・スクールが展開されていくのではないかなと思う。これまでやってきたパートナーシップ事業はこういう理念でこうやっていくのだということを職員に振り返らせるようなきっかけにもなっているのではないかと、うまく今後もっていければいいという紹介をさせていただいた。

（３）その他

５　閉会

【配布資料】
・令和５年度第１回新潟市地域と学校パートナーシップ事業運営協議会資料